

# モノとしての金次郎

## —二宮金次郎像関連文献目録・稿—

角南聡一郎

### はじめに

戦後日本における報徳思想を知る契機の一つが、二宮金次郎像である。報徳思想そのものを知らずとも、二宮金次郎像のことは認識しているという人も多数いるであろう。それは、現代においては報徳思想や二宮尊徳という実在の人物ではなく、金次郎像をモノとして捉えていることが大きな要因であると考えられる。本共同研究で筆者は、物質文化研究を専らとする立場から、戦後、金次郎像がどのように認識され持続あるいは破壊されていったかという点と、金次郎像が研究対象と見做されるようになり在野の研究者を中心に、事例調査と資料の集積がなされていったことについて、主として調査研究を実施した。しかしながら、その全貌は未だに明らかにできていない。そこで本稿では、研究の中間報告として、現段階での二宮金次郎像関連文献目録を提示し、これらに関する概要を述べることにしたい。

### 研究のはじまり

愛知県の小学校教員・高橋一司は金次郎像の調査を実施し、1968年に謄写版『二宮像をさぐる』を自費出版しその成立について論じた（高橋 1968）。これをもとに、同じく愛知県の小学校教員で、後に『愛知県教育史』（愛知県教育委員会編 1975）の編纂にも携わる中西光夫と共に『愛知教育』誌上に概要版を公にした（高橋・中西 1971a、高橋・中西 1971b）。これらで高橋は、金次郎像の建立は愛知県を中心にブームをおこしたこと、県内の建立最盛期が昭和8、9年ごろであること、他県にみられない質と量であったことを述べている。その理由として、県下におけるさかんな報徳社の結成、報徳思想の普及と、それにあわせて昭和初期農村自力更生運動や国民精神作興運動と関連づけられたこと、さらには花崗岩の町岡崎をひかえていたことなどをあげている。また、中西は地域教育実践の構築に貢献した社会科教員として評価

されている（木村 2009）。つまり、金次郎像研究の初歩は、教育史的観点からであったことが確認できる。公共空間にモノが設置された始まりは、時代を遡ると石仏や道祖神など宗教的なもの、国威発揚、社会教育的なもの（楠木正成・二宮金次郎像など）があったが、芸術性を取り入れたのは、第2次世界大戦後であった（仲原 1998：8）。楠木正成像についての研究は、森正人（森 2017）、谷田博幸（谷田 2019）らによってなされている。また、楠木正成像と二宮金次郎像の比較研究は、籠谷次郎による大阪府下の小学校を事例としたものがある（籠谷 1997）。

次に金次郎像が研究の対象化されるのは、1987年刊行、藤森照信・荒俣宏の『東京路上博物誌』が契機であったと考えられる（荒俣 1987、藤森 1987）。本書は、路上観察学の活動の一環として編まれたものである（赤瀬川・藤森・南編 1986）。路上観察学は、＜前衛＞芸術家赤瀬川原平の一連の＜芸術＞活動、特に＜超芸術＞という発想を核として生まれた。1960年代末に今和次郎たちの考現学を知った赤瀬川とともに、70年代の初頭から日本近代建築調査のフィールドワークである＜建築探偵団＞を開始した、藤森照信たちも考現学に関心を寄せ、影響を受けていた。彼らの活動が一体化して＜路上観察学会＞が設立されたのは1986年であり、同年にはそのマニフェストともいえるべき『路上観察学入門』が刊行された（田中 1996）。続いて、1989年に井上章一による『ノスタルジック・アイドル二宮金次郎』が刊行され、身近な金次郎像への関心は一気に高まったと考えられる。その影響を受けて、1990年代以降に全国各地で金次郎像しらが盛んになっていったようだ。以上のように金次郎像への興味は、報徳思想とは関係しない所に芽生えたことを確認しておくことは重要であろう。

地域の二宮金次郎像調査について、飯森富夫は以下のように述べている（飯森 2023：362）。金次郎像の調査・公表だけでなく、個人で報徳に関する調査・研究を重ね、同人誌や個人誌などで発信を続ける人々もいる。アカデミズムで取り上げられることはほぼないが、対象へと沈潜するその真摯な姿勢を軽視してはなるまい。「研究者」だけが、報徳に関する調査・研究・発信を許されているわけではない。

## モノの情報化と文献目録

前述のような状況で、これまでの蓄積を共有しそれを基に研究を深化させていくには、金次郎像の文献一覧が必要であると考えられる。そこで、筆者がその暫定版を作成するに至った。詳細は文末の二宮金次郎像関連文献を参照されたい。

金次郎像の文献には、博物館等公的機関による報告、個人による報告・写真集がある。後者は自費出版のものが少なくなく、それらの入手は容易ではない。しかしながら、全国各地の図書館データベースが充実することにより、情報を集積することが可能となり、図書館相互利用サービスを利用すれば、現物資料を手にすることができる。こうした状況の変化によって、金次郎像研究の全体像を掴むことが可能となったと考えられる。

特筆すべきは、鈴木一政により、2008年から『報徳』誌上で連載をされている「金次郎像をたずねて」である（鈴木 2008aほか）。連載は2024年末段階で193回を数え、現在も継続中である。近い将来これらが一書にまとめられることが期待される。

## インターネット上の金次郎像探索

ICTの発展により、情報量は飛躍的に多くなった。インターネットを利用して個人の調査データが共有されるケースも見られるようになってきた。一例をあげると、岡山歴史研究会のホームページでは2014年9月26日付で、会員の平井悦夫による広島県、岡山県、香川県の二宮金次郎像の学校訪問記録が、「二宮金次郎像スケッチNo.1～52」、「二宮金次郎像スケッチNo.53～100」、「二宮金次郎像行脚日記」、「最新版二宮金次郎像が現存する学校リスト（広島、岡山、香川、鳥取）」、「二宮金次郎像が建立された学校一覧（年代毎）」という形でPDFにより公開されている<sup>1)</sup>。平井は2015年沼隈郷土文化研究友の会の会誌『郷土文化研究ぬまくま』1号に「二宮金次郎像：調査レポート」を寄稿している（平井 2015）。三浦茂は『三河の金次郎像全調査』で、平井のPDFデータを引用している（三浦 2022：224-225）。

しかしながら、過剰なインターネット情報から目的とするものを探し出すことが困難となった。そこで生み出されたのがリンク集である。不特定多数

のユーザーが共同してウェブブラウザから直接コンテンツを編集するシステムであるウィキ(wiki)により、リンク集が作成される場合もある。アットウィキ(@WIKI)は株式会社アットウィキが提供するレンタルウィキサービスである。主にゲーム攻略情報やコミュニティのためのウィキが作成・運営されている。ここで「全国の二宮金次郎像(二宮尊徳像)」が作成され、二宮金次郎のリンク集として利用がなされている<sup>2)</sup>。中でも突出しているのは『二宮金次郎像』である。愛知県を中心として全国の金次郎像の集計表が提示されており参考となる(表1)<sup>3)</sup>。これは本サイト運営者自身が調査した愛知県・岐阜県・三重県・静岡県・滋賀県のデータと、各地の許諾を得た個人による調査データ、サイトに公表されたデータをHP運営者が集計したものである。これからの時代は、インターネット上の金次郎像も重要な情報であり、調査研究の成果であるといえる。

## 処分される金次郎像

2024年5月、兵庫県三木市で「二宮金次郎像」を、一般競争入札で売却することが報道された。『朝日新聞』は以下のように報じた。「二宮金次郎像は、青銅製で台座を含む高さは約1メートル、重さ約23キロ。児童減による統廃合のため、2022年3月に閉校した旧東吉川小学校の校舎前に、1959(昭和34)年に設置された記録が残る。設置の経緯などは不明だ。像はいつしか、グラウンドの隅に移されていたという。旧小学校の土地を持ち主に返還するにあたり、像を処分するよりは有効活用してもらえようと売却を決定したという。今年4月からは市役所で保管していた」(森 2024)。

このように撤去・処分される金次郎像に対して、報徳二宮神社は手を差し伸べると宣言した。報徳二宮神社のホームページには、「二宮金次郎像を拝領いたします」として以下のように告知がなされている。「昨今、小学校の統廃合などやむを得ないご事情で、二宮金次郎像の行き場がなくなってしまうことがあるようです。報徳二宮神社及び報徳博物館では、そうした二宮金次郎像をお引き受けいたします。みなさまの思い出や歴史のある大切な像を、所蔵・展示等させていただきます」<sup>4)</sup>。

このような動きは、報徳二宮神社創建125周年記念の一環として、2019年7

月21日～9月16日の間、神奈川県小田原市の報徳博物館で「二宮金次郎像特展」が開催されたこととも関係すると考えられる。

### 学校の怪談における金次郎像とその影響

今井秀和は、1990年代以降に小中学生期を過ごした世代の二宮金次郎とは、伝記に登場する「偉人」であると同時に、学校で語られる恐ろしい噂話、いわゆる「学校の怪談」に登場する「妖怪」的な存在でもあったとする。こうした傾向は現在も続いており、「夜動く金次郎像」などの「学校の怪談」にまつわる情報を直視しなければ、現代の一般社会における二宮金次郎のイメージの全体像を捉えることは到底、不可能であるとする言えることを指摘した（今井 2016：21）。今村のこのことは、モノとしての金次郎像を考察する上でも重要な卓見である。

そうした観点から、小学生向けの読み物や漫画を眼差すと、多くの事例を発見することができる。前者には『走る二宮金次郎のなぞ』という直接的なタイトルのものがある（かんだき 2002）。後者は所謂妖怪ものや怪談ものに金次郎像が登場する。

『地獄先生ぬ〜べ〜』は真倉翔（原作）・岡野剛（漫画）のチームで『週刊少年ジャンプ』1993年38号から1999年24号まで全276話が掲載された。1994年34号の#46は「走る!二宮金次郎の巻」である（真倉・岡野 1995）。飯島しんごうの『怪談イズデッド』にはキャラクターとして二宮金次郎（の像）が登場する。著者によれば、この漫画を描くきっかけとなったのは、「最近の小学校では二宮金次郎像が次々撤去されている」という報道であったという（飯島 2014:147）。また、新潮社のウェブコミック配信サイト『くらげバンチ』にて2015年3月27日より掲載が開始された、藤栄道彦の『妖怪の飼育員さん』の#116は「歩く二宮金次郎像」であった（藤栄 2022）。これは、「走る二宮金次郎像」のパロディーであると考えられる。

### キャラ化する金次郎像

「学校の怪談」は現在も進化している。それは関連グッズにも認められる。近年の若者世代の流行として、アクリルスタンド（アクスタ）があげられる。

アクスタは、アクリル樹脂製の高さ5～15センチ、厚さ数ミリほどの板に、人間の俳優やアイドル、漫画やアニメ、ゲームのキャラクターが描かれ、それを台座に差すことで自立させられる。2014年頃から多く出回りはじめたといわれ、元々は机の上などに置いておくインテリアの一種として流通していた。ところがここ数年、アクスタを鞆に忍ばせ、外出先で写真を撮り、SNSに投稿しているという学生が増加している（菊地 2024：160-161）。

アクスタブームは、金次郎像周辺にまで影響を及ぼしている。バンダイナムコグループの公式通販サイト・プレミアムバンダイで2024年に告知された「学校のコワイうわさ 花子さんがきた!!」シリーズの30周年を記念したグッズがそれである<sup>5)</sup>。アクリル製品には「学校のコワイうわさ 新・花子さんがきた!!」のアクリルスタンドと「学校のコワイうわさ 新・花子さんがきた!!」のアクリルメッセージディスプレイがあり、アクリルメッセージディスプレイには、花子さんや、金次郎、口裂け女、トンカラトンといった妖怪・幽霊たちの姿をデザイン。キャラクターが描かれたプレートと、「有給休暇中」「食事中」「外出中」など、仕事場でも使いやすいメッセージプレートがセットになっている<sup>6)</sup>。

金次郎のアクリルスタンド自体は未だ販売されていないようだが、類似するものがある。「茶のみやきんじろうアクリルスタンド」がそれだ<sup>7)</sup>。「茶のみやきんじろう」は掛川市公式キャラクターで掛川市ホームページによると以下のように紹介されている。「2012年に静岡県で開催された「全国お茶まつり」に合わせ、「お茶のまち掛川」をPRするために誕生したマスコットキャラクターです。11月8日（いい葉の日）生まれ。生まれも育ちも掛川市。報徳のまち掛川ゆかりの二宮金次郎をモチーフに、掛川茶のことが書かれた本を持ち、絶えず研究している男の子。頭と本には、お茶の新芽「一芯二葉」がデザイン。深蒸し掛川茶をイメージした緑色の着物を着ています」<sup>8)</sup>。

もう少しすると二宮金次郎像のアクリルスタンドも誕生するかもしれない。

## おわりに

本稿では金次郎像関連文献一覧の作成はなせたものの、それら文献の具体的分析までは至らなかった。また、戦前・戦後の金次郎像製作に関する文献

史料や、貯金箱やペン立てといった多機能を備えた金次郎像に関する文献までは見出すことができなかった。引き続き調査研究を継続し、機会を改めて考察を加える予定である。

なお本稿作成に際しては、以下の諸氏からのご教示・ご協力を賜った。記して感謝したい。伊藤さやか、今井秀和、鈴木一政、谷口總一郎、藤倉徹夫、宮岡真央子（敬称略）。

### 【註】

- 1) 「二宮金次郎像 スケッチ行脚」『岡山歴史研究会』  
<http://b.okareki.net/wp-content/uploads/2014/09/a7614973c193be3a42bd09d88b22af6c.pdf> （2025年1月7日 最終閲覧）
- 2) 「全国の二宮金次郎像（二宮尊徳像）」  
<https://w.atwiki.jp/ninomiyakinzirou/pages/35.html>  
 （2025年1月7日 最終閲覧）
- 3) 『二宮金次郎像』  
<http://kinjiro.a.la9.jp/> （2025年1月7日 最終閲覧）
- 4) 「二宮金次郎像を拝領いたします」『報徳二宮神社』  
<https://www.ninomiya.or.jp/kinzirozo/> （2025年1月7日 最終閲覧）
- 5) 「アクリルメッセージディスプレイ「学校のコワイうわさ 新・花子さんがきた!!」」『プレミアムバンダイ』  
<https://p-bandai.jp/item/item-1000215752/?srsltid=AfmBOorUr-1UheSmAspdwTP8hXKYtWPHbfUt5RViqZ0UVBvgvQzVz7sR>  
 （2025年1月7日 最終閲覧）
- 6) コミックナタリー編集部 「「学校のコワイうわさ 花子さんがきた!!」 30周年、花子さんや金次郎のアクスタ発売」2024年8月12日付  
<https://natalie.mu/comic/news/586228> （2025年1月7日 最終閲覧）
- 7) 「茶のみやきんじろうアクリルスタンド」『全国のご当地キャラグッズショップきゃらポチッ』  
<https://www.chara-navi.com/view/item/000000000051?srsltid=AfmBOo>

oCU-R-pW9tno4n9Ws8dfIj01nqvHHvXl5yMC4kE9lPLhyXrBr7

(2025年1月7日 最終閲覧)

8) 「掛川市公式キャラクター「茶のみやきんじろう」について」『掛川市』

<https://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/gyosei/docs/7756.html>

(2025年1月7日 最終閲覧)

## 二宮金次郎像関連文献 (50音順)

### 【あ】

愛知県教育委員会編 1975『愛知県教育史』4愛知県教育委員会

青木秀樹 2001「岐阜市内小学校に現存する金次郎像について：再建・再再建  
をめぐって」『博物館だより』50 pp.6-7

青木秀樹・小野木義浩 2003「金次郎像について：岐阜地区小学校の場合」『岐  
阜市歴史博物館研究紀要』16 pp.1-18

我妻考一 [出版年不明]『群馬県内の二宮金次郎像』我妻考一

我妻考一 [出版年不明]『二宮金次郎像：石像 群馬編』我妻考一

我妻考一 [出版年不明]『二宮金次郎像：セメント像 群馬編』我妻考一

我妻考一 [出版年不明]『埼玉二宮金次郎像全調査』我妻考一

我妻考一 [出版年不明]『福島県内小学校二宮金次郎像写真1』我妻考一

我妻考一 [出版年不明]『福島県内小学校二宮金次郎像写真2』我妻考一

我妻考一 [出版年不明]『福島県内小学校二宮金次郎像写真3』我妻考一

荒俣宏 1987「銅像観察随聞記」『東京路上博物誌』鹿島出版会 pp.96-116

### 【い】

飯出基吉 1990「『二宮金次郎像』の周辺：明治・大正・昭和戦前期において」『群  
馬県立歴史博物館調査報告書』6 群馬県立歴史博物館 pp.41-58

飯森富夫 2023「第11章 報徳運動の現在」『報徳思想とその展開：近世から  
近現代へ』不二出版 pp.343-368

幾田伸司 2006「戦後小学校国語教科書における二宮金次郎像についての考察：  
戦後国語教科書における理想的人間像の検討」『広島大学大学院教育学研究  
科紀要 第二部（文化教育開発関連領域）』54 pp.123-132

伊勢弘志 2010「国民統制政策における銅像と社会：校庭に「二宮金次郎像」が建つまで」『駿台史学』140 pp.1-29

伊藤利明・石村由利子 2018「道徳教材としての二宮金次郎論」『関西福祉科学大学紀要』22 pp.25-34

井上章一 1989『ノスタルジック・アイドル二宮金次郎』新宿書房

井上章一 1998「第9章 勤労と勉学の図像学：二宮金次郎像の盛衰をめぐって」『日本人の労働と遊び・歴史と現状』国際日本文化研究センター pp.133-140

今井秀和 2016「妖怪化する二宮金次郎像：「学校の怪談」に至るイメージ変容とその力学」『報徳学』13 pp.21-34

岩井茂樹 2007「二宮金次郎「負薪読書図」源流考」『日本研究』36 pp.7-46

岩本努 1979「二宮金次郎銅像の“応召”について」『歴史地理教育』287 pp.75-79

## 【う】

上垣正明 2019a「旧有馬郡・旧美囊郡東部域の二宮金次郎像（上）」『歴史と神戸：神戸を中心とした兵庫県郷土研究誌』58-4 pp.30-37

上垣正明 2019b「旧有馬郡・旧美囊郡東部域の二宮金次郎像（下）」『歴史と神戸：神戸を中心とした兵庫県郷土研究誌』58-5 pp.30-45

植田心壮 2011『現地探訪二宮金次郎は生きている』日本文教出版

## 【お】

大熊町役場教育総務課社会教育係文化財担当 2021「おおくま再発見③大野小の二宮金次郎像」『広報おおくま』593 p.30

大竹道茂 2008「二宮金次郎と相互扶助組織」『町田地方史研究』19 pp.108-111

岡角憲次 2007『アナクロか二宮金次郎像：滋賀県下を巡って』岡角憲次

奥瀬多喜男 2023『青森県の二宮金次郎像』奥瀬多喜男

## 【か】

葛西満永 2011『六ヶ所村二宮尊徳翁幼時の像物語』葛西満永

籠谷次郎 1997「二宮金次郎像と楠木正成・正行像：大阪府小学校における設置状況の考察」『社会科学』58 pp.1-35

片山隆 2010『十勝の「二宮金次郎像」を訪ねて』片山隆

神奈川県土地家屋調査士会編 2010『金次郎MAP 神奈川県二宮金次郎像特集』  
神奈川県土地家屋調査士会

【き】

木下忠 1992「二宮金次郎像について」『遠江』15 pp.81-88

木龍克己 1992「金次郎像のイメージとスタイル:その実像を探る」『技術教室』  
40-8 pp.58-63

木龍克己 1996「金次郎像の不思議」『大磯町郷土資料館だより Report』14  
pp.4-7

木龍克己 2001「首都圏の金次郎像」『草加市史協年報』20 pp.2-7

木龍克己 2004「戦前と戦後の金次郎像：蕨市を例として」『蕨市立歴史民俗  
資料館研究紀要』1 pp.13-22

許佩賢 2022「日治時期臺灣的二宮金次郎銅像：學校的物質文化史考察之一面  
向」『臺灣史研究』29-3 pp.99-147

金耿昊 2021a「横浜の二宮金次郎像（一）」『市史通信』41 pp.9-11

金耿昊 2021b「横浜の二宮金次郎像（二）」『市史通信』42 pp.1-3

【く】

組合設立100年誌編集委員会 1986『石と共に生きる：石都岡崎』岡崎石製品  
協同組合連合会

桑山亀義 1994「公園などの人物像について」『常滑市民俗資料館 友の会だよ  
り』15 pp.11-13

【け】

現代史の会編集部 1976「二宮金次郎の華麗な再登場」『季刊現代史』8 pp.190-  
201

【こ】

小泉敦 2018「二宮金次郎像と学校」『八戸地域史』55 pp.24-41

小泉敦 2019「青森県の二宮金次郎像と学校」『三朝』43 pp.104-112

甲良町ふるさとプロジェクト 2024「写真でたどるふるさと再発見No.62 学校  
の二宮金次郎さん」『広報こうら』551 p.22

## 【さ】

齋藤裕 2022「戦時日本の銅像供出の実態：東京大学文書館所蔵『銅像回収関係』を例に」『東京大学文書館紀要』40 pp.1-21

坂口英伸 2016「金次郎と尊徳：美校と二つの二宮像」『GEIDAI TSUSHIN』31 p.26

酒匂猛 2018『小学校の二宮金次郎さん：鹿児島県全調査資料』南方新社

櫻井芳昭 2011「春日井の二宮金次郎像」『郷土誌かすがい』70 pp.2-5

佐々木優実 2017「金次郎像の建設：宮城県の場合」『宮城県公文書館だより』33 pp.6-10

## 【し】

柴田力夫編 2002『二宮金次郎像 仙台市内編』柴田力夫

清水洋子 2008「三川小の二宮尊徳像と三川の報徳運動」『新ふるさと袋井』23 pp.2-4

嶋村博 1998「二宮尊徳像の建設とその背景」『岡崎地方史研究会研究紀要』26 pp.1-19

城岡朋洋 2005「二宮金次郎像を追いかけて」『高岡高等学校図書館誌 書燈』44 pp.4-12

## 【す】

須田将司 2023「金次郎像のいま・むかし」『報徳思想とその展開：近世から近現代へ』不二出版 pp.77-80

鈴木一政 2008a「金次郎像をたずねて（1）：個人宅にある金次郎像―浜岡新野 増田家―」『報徳』107-1222 p.24

鈴木一政 2008b「金次郎像をたずねて（2）：薪を背負わない二宮金次郎像 掛川市立横須賀小学校の銅像①」『報徳』107-1223 p.20

鈴木一政 2008c「金次郎像をたずねて（3）：薪を背負わない二宮金次郎像 掛川市立横須賀小学校の銅像②」『報徳』107-1224 p.25

鈴木一政 2008d「金次郎像をたずねて（4）：薪を背負わない二宮金次郎像 掛川市立横須賀小学校の銅像③」『報徳』107-1225 p.7

鈴木一政 2008e「金次郎像をたずねて（5）：薪を背負わない二宮金次郎像 南足柄小学校の銅像」『報徳』107-1226 p.7

- 鈴木一政 2008f「金次郎像をたずねて (6)：薪を背負わない二宮金次郎像 小田原市立報徳小学校の銅像」『報徳』107-1227 p.18
- 鈴木一政 2009a「金次郎像をたずねて (7)：金次郎像の悲劇―戦火拡大で犠牲に―二宮金次郎像も代用品の陶製像に」『報徳』108-1229 p.25
- 鈴木一政 2009b「金次郎像をたずねて (8)：金次郎像の悲劇②―奪われた学童の手本―校庭から出陣…兵器に」『報徳』108-1230 p.28
- 鈴木一政 2009c「金次郎像をたずねて (9)：金次郎像の悲劇③―沼津市第一小学校で壮行会―」『報徳』108-1231 p.7
- 鈴木一政 2009d「金次郎像をたずねて (10)：金次郎像の悲劇④―御殿場小学校―再会を楽しみに見送る作文「銅像を送って」」『報徳』108-1232 p.23
- 鈴木一政 2009e「金次郎像をたずねて (11)：金次郎像の悲劇⑤ 金次郎像回収通牒と供出された像」『報徳』108-1233 p.7
- 鈴木一政 2009f「金次郎像をたずねて (12)：日本で最初に製作された金次郎像 明治神宮宝物館に安置」『報徳』108-1235 p.28
- 鈴木一政 2009g「金次郎像をたずねて (13)：日本最初の校庭金次郎像 愛知県豊橋市立前芝小学校①」『報徳』108-1236 p.7
- 鈴木一政 2009h「金次郎像をたずねて (14)：学校に建てられた最古の金次郎像② 豊橋市立前芝小学校」『報徳』108-1237 p.7
- 鈴木一政 2009i「金次郎像をたずねて (15)：小田原市報徳二宮神社の金次郎銅像」『報徳』108-1238 p.25
- 鈴木一政 2009j「金次郎像をたずねて (16)：御大典奉祝名古屋博覧会に出た金次郎石像 岡崎の石工長坂順治氏出品 金次郎一号像」『報徳』108-1239 p.7
- 鈴木一政 2009k「金次郎像をたずねて (17)：長坂順治氏の第二号像 旧岡崎盲学校校庭」『報徳』108-1240 p.27
- 鈴木一政 2010a「金次郎像をたずねて (18)：岡崎市での金次郎石像制作の指導者 多和田泰山」『報徳』109-1241 p.29
- 鈴木一政 2010b「金次郎像をたずねて (19)：掛川駅北口広場の金次郎像」『報徳』109-1242 p.7
- 鈴木一政 2010c「金次郎像をたずねて (20)：掛川市土方小学校の金次郎像 小学校校庭に建てられた銅像で全国で最も古い像」『報徳』109-1243 p.7

- 鈴木一政 2010d「金次郎像をたずねて (21)：旧金谷町神谷城社会福祉法人神谷城保育園の金次郎像」『報徳』109-1244 p.7
- 鈴木一政 2010e「金次郎像をたずねて (22)：小田原市下曾我二宮尊徳遺髪塚と金次郎像」『報徳』109-1245 p.8
- 鈴木一政 2010f「金次郎像をたずねて (23)：寺の境内にある金次郎像 (1) 掛川市日坂小夜の中山久延寺の金次郎像」『報徳』109-1247 p.7
- 鈴木一政 2010g「金次郎像をたずねて (24)：寺の境内にある金次郎像 (2)」『報徳』109-1248 p.29
- 鈴木一政 2010h「金次郎像をたずねて (25)：寺の境内にある金次郎像 (3) 東京都鉄砲洲稲荷神社の金次郎銅像」『報徳』109-1249 p.5
- 鈴木一政 2010i「金次郎像をたずねて (26)：寺の境内にある金次郎像 (4) 小田原市善栄寺にある二宮金次郎「少年勉学の像」」『報徳』109-1250 p.23
- 鈴木一政 2010j「金次郎像をたずねて (27)：寺の境内にある金次郎像 (5) 小田原市飯泉観少年金次郎の観音礼拝の像」『報徳』109-1251 p.7
- 鈴木一政 2010k「金次郎像をたずねて (28)：寺の境内にある金次郎像 (6) 東京都文京区駒込吉祥寺の尊徳先生菩提塔と金次郎石像」『報徳』109-1252 p.31
- 鈴木一政 2011a「金次郎像をたずねて (29)：静岡市上足洗「よこもっこ村」の金次郎銅像」『報徳』110-1253 p.7
- 鈴木一政 2011b「金次郎像をたずねて (30)：「報徳の教え」を「恩徳に報いる子等に」伊東市 東京都中央区立宇佐美学園の銅像」『報徳』110-1254 p.26
- 鈴木一政 2011c「金次郎像をたずねて (31)：愛知県春日井市立勝川小学校くわについて本を読む二宮金次郎像」『報徳』110-1255 p.7
- 鈴木一政 2011d「金次郎像をたずねて (32)：台石表面に「以德報徳」掛川市立東山口小学校の像」『報徳』110-1256 p.7
- 鈴木一政 2011e「金次郎像をたずねて (33)：全身が金色に輝く願掛け金次郎像 JR東京駅八重洲口「八重洲ブックセンター前」」『報徳』110-1257 p.30
- 鈴木一政 2011f「金次郎像をたずねて (34)：二宮金次郎像は寄付で建立された (1)」『報徳』110-1258 p.7
- 鈴木一政 2011g「金次郎像をたずねて (35)：二宮金次郎像は寄付で建立され

- た (2) 報徳人による寄付」『報徳』 110-1259 p.24  
鈴木一政 2011h「金次郎像をたずねて (36) : 二宮金次郎像は寄付で建立された (3) 報徳社が寄贈」『報徳』 110-1260 p.7  
鈴木一政 2011i「金次郎像をたずねて (37) : 二宮金次郎像は寄付で建立された (4) 町議会議員と組合員の寄付」『報徳』 110-1261 p.25  
鈴木一政 2011j「金次郎像をたずねて (38) : 二宮金次郎像は寄付で建立された (5) 学校PTAの寄付」『報徳』 110-1262 p.25  
鈴木一政 2011k「金次郎像をたずねて (39) : 二宮金次郎像は寄付で建立された (6) 卒業記念で建立された像」『報徳』 110-1663 p.5  
鈴木一政 2011l「金次郎像をたずねて (40) : 二宮金次郎像は寄付で建立された (7) 紀元2600年奉祝記念で建立された像 (1)」『報徳』 110-1264 p.27  
鈴木一政 2012a「金次郎像をたずねて (41) : 二宮金次郎像は寄付で建立された (8) 紀元2600年奉祝記念で建立された像 (2)」『報徳』 111-1266 p.7  
鈴木一政 2012b「金次郎像をたずねて (42) : 台座に道歌のある像 (1) 故道に積もる木の葉をかきわけて天照神の足跡を見む」『報徳』 111-1267 p.11  
鈴木一政 2012c「金次郎像をたずねて (43) : 台座に道歌のある像 (2) 二宮尊徳の碑にある道歌 ふるみちにつもる木の葉をかきわけて天照神の足あとを見む」『報徳』 111-1268 p.39  
鈴木一政 2012d「金次郎像をたずねて (44) : 台座に道歌のある像 (3)」『報徳』 111-1269 p.35  
鈴木一政 2012e「金次郎像をたずねて (45) : 台座に報徳訓のある像 (1)」『報徳』 111-1270 p.7  
鈴木一政 2012f「金次郎像をたずねて (46) : 金次郎像横にある報徳訓 (2)」『報徳』 111-1271 p.7  
鈴木一政 2012g「金次郎像をたずねて (47) : 台座に「1日に一字ずつ習えば1年に三百六十五字になるぞ この小僧」とある像」『報徳』 111-1272 p.40  
鈴木一政 2012h「金次郎像をたずねて (48) : 掛川市立倉真小学校の像」『報徳』 111-1273 p.7  
鈴木一政 2012i「金次郎像をたずねて (49) : 掛川市倉真 報徳二宮神社境内の像」『報徳』 111-1274 p.7

- 鈴木一政 2012j「金次郎像をたずねて (50): 掛川市立西山口小学校の像」『報徳』 111-1275 p.27
- 鈴木一政 2012k「金次郎像をたずねて (51): 二宮金次郎 (尊徳) の実像と虚像」『報徳』 111-1276 p.28
- 鈴木一政 2013a「金次郎像をたずねて (52): 少年金次郎が全国の小学校に建った理由 (1)」『報徳』 112-1277 p.7
- 鈴木一政 2013b「金次郎像をたずねて (53): 少年金次郎が全国の小学校に建った理由 (2)」『報徳』 112-1278 p.7
- 鈴木一政 2013c「金次郎像をたずねて (54): 負薪読書像は金次郎14歳頃の姿」『報徳』 112-1279 p.10
- 鈴木一政 2013d「金次郎像をたずねて (55): 銅像・石像が背負う柴・薪の意味は負薪読書の姿の出所は報徳記」『報徳』 112-1280 p.8
- 鈴木一政 2013e「金次郎像をたずねて (56): 負薪読書図の源流考①」『報徳』 112-1281 p.8
- 鈴木一政 2013f「金次郎像をたずねて (57): 負薪読書図の源流考②負薪読書像のモデルはアメリカの牛飼いの少年」『報徳』 112-1282 p.7
- 鈴木一政 2013g「金次郎像をたずねて (58): 負薪読書図の源流考③負薪読書像ができるまでの時系列」『報徳』 112-1283 p.10
- 鈴木一政 2013h「金次郎像をたずねて (59): 柴刈りにいった入会地」『報徳』 112-1284 p.7
- 鈴木一政 2013i「金次郎像をたずねて (60): 銅像・石像が背負う柴・薪の意味は (5) 柴・薪を「換金商品」と考えると」『報徳』 112-1285 p.12
- 鈴木一政 2013j「金次郎像をたずねて (61): 銅像・石像が背負う柴・薪の意味は (6) 柴・薪の家計簿に占める割合は14.2%」『報徳』 112-1286 p.19
- 鈴木一政 2013k「金次郎像をたずねて (62): 銅像・石像が背負う柴・薪の意味は (8) 柴・薪刈りの途中での読書—大声で読む・キ印の金次郎—」『報徳』 112-1287 p.12
- 鈴木一政 2013l「金次郎像をたずねて (63): 柴・薪刈りの途中での読書—読書をしたわけ—」『報徳』 112-1288 p.7
- 鈴木一政 2014a「金次郎像をたずねて (64): 柴・薪刈りの途中での読書「大学」

に書かれている言葉』『報徳』 113-1289 p.25

鈴木一政 2014b「金次郎像をたずねて (65): 柴・薪刈りの途中での読書 (4)」  
『報徳』 113-1290 p.8

鈴木一政 2014c「金次郎像をたずねて (66): 太神楽の舞、十二文の金がない」  
『報徳』 113-1291 p.7

鈴木一政 2014d「金次郎像をたずねて (67): 読書と菜種栽培地「小を積んで  
大と為す」」『報徳』 113-1292 p.7

鈴木一政 2014e「金次郎像をたずねて (68): 捨て苗と「積小為大」」『報徳』  
113-1293 p.7

鈴木一政 2014f「金次郎像をたずねて (69): 多年の念願であった一家再興へ  
の第一歩」『報徳』 113-1294 p.7

鈴木一政 2014g「金次郎像をたずねて (70): 金次郎 名君 大久保忠真公との  
出会い 酒匂川の河原で表彰で「自他両全」」『報徳』 113-1295 p.7

鈴木一政 2014h「金次郎像をたずねて (71): 二宮金次郎か二宮金治郎か」『報  
徳』 113-1296 p.7

鈴木一政 2014i「金次郎像をたずねて (72): 桜町領 (現在の栃木県真岡市二宮)  
の農村復興 村の復興には、まず廻村」『報徳』 113-1297 p.7

鈴木一政 2014j「金次郎像をたずねて (73): 桜町領 (現在の栃木県真岡市二宮)  
の農村復興3 大日本報徳社庭にある村民表彰像」『報徳』 113-1298 p.8

鈴木一政 2014k「金次郎像をたずねて (74): 桜町領 (現在の栃木県真岡市二宮)  
の農村復興3 生産意欲を高めた表彰制度」『報徳』 113-1299 pp.8-9

鈴木一政 2014l「金次郎像をたずねて (75): 二宮金次郎の出精人表彰 静岡県  
駿東郡小山町藤曲村の例」『報徳』 113-1300 p.25

鈴木一政 2015a「金次郎像をたずねて (76): 藤曲の浅間神社境内にある二宮  
金次郎の墓碑」『報徳』 114-1301 p.7

鈴木一政 2015b「金次郎像をたずねて (77): 仕法の妨害と成田山での断食祈  
願後桜町領の立て直しに成功」『報徳』 114-1302 p.6

鈴木一政 2015c「金次郎像をたずねて (78): 大久保忠真公 功労賞を賞す」『報  
徳』 114-1303 p.6

鈴木一政 2015d「金次郎像をたずねて (79): 金次郎を世に出す大久保忠真公」

『報徳』 114-1304 p.7

鈴木一政 2015e「金次郎像をたずねて (80)：ナスの味から凶作になる 天保の大飢饉への対応」『報徳』 114-1305 p.7

鈴木一政 2015f「金次郎像をたずねて (81)：小田原仕法 飢民の救済・至誠米倉を開かす」『報徳』 114-1306 p.7

鈴木一政 2015g「金次郎像をたずねて (82)：青木村の普請—水田を潤す堰づくり—」『報徳』 114-1307 p.7

鈴木一政 2015h「金次郎像をたずねて (83)：烏山救済と円応和尚」『報徳』 114-1308 p.6

鈴木一政 2015i「金次郎像をたずねて (84)：相馬仕法」『報徳』 114-1309 p.6

鈴木一政 2015j「金次郎像をたずねて (85)：尊徳大往生」『報徳』 114-1310 p.7

鈴木一政 2015k「金次郎像をたずねて (86)：二宮金次郎（尊徳翁）の実像と虚像」『報徳』 114-1311 p.7

鈴木一政 2015l「金次郎像をたずねて (87)：小田原市尊徳博物館 ろう人形 二宮尊徳廻村の像」『報徳』 114-1312 p.8

鈴木一政 2016a「金次郎像をたずねて (88)：小田原市尊徳記念館広場二宮尊徳廻村の像」『報徳』 115-1313 p.9

鈴木一政 2016b「金次郎像をたずねて (89)：二宮尊徳翁の像 (3) 御殿場市中清水報徳社横二宮尊徳廻村の像」『報徳』 115-1314 p.6

鈴木一政 2016c「金次郎像をたずねて (90)：二宮尊徳翁の像 (4) かみしもを着けた二宮尊徳翁座像3体」『報徳』 115-1315 p.7

鈴木一政 2016d「金次郎像をたずねて (91)：二宮尊徳翁の座像 (5) 牧之原市大寄報徳社建立 二宮尊徳翁石像」『報徳』 115-1316 p.7

鈴木一政 2016e「金次郎像をたずねて (92)：二宮尊徳翁の座像2体」『報徳』 115-1317 p.8

鈴木一政 2016f「金次郎像をたずねて (93)：二宮金次郎の座像」『報徳』 115-1318 pp.6-7

鈴木一政 2016g「金次郎像をたずねて (94)：北海道中川郡豊頃町役場庁舎敷地内二宮尊徳廻村の像」『報徳』 115-1319 p.6

鈴木一政 2016h「金次郎像をたずねて (95)：1円札の肖像画 二宮尊徳翁」『報

徳』 115-1320 p.29

鈴木一政 2016i「金次郎像をたずねて (96):日光市今市の尊徳廻村像 (1)」『報徳』 115-1321 p.7

鈴木一政 2016j「金次郎像をたずねて (97):日光市今市の尊徳廻村像 (2)」『報徳』 115-1322 p.8

鈴木一政 2016k「金次郎像をたずねて (98):栃木県二宮町尊徳資料館前 尊徳翁廻村銅像」『報徳』 115-1323 p.9

鈴木一政 2016l「金次郎像をたずねて (99):栃木県二宮町桜町陣屋と久下田駅前の二宮先生「廻村の像」」『報徳』 115-1324 p.6

鈴木一政 2017a「金次郎像をたずねて (100):報徳学園の尊徳廻村像」『報徳』 116-1325 p.9

鈴木一政 2017b「金次郎像をたずねて (101):昭和3年建立の二宮金次郎像」『報徳』 116-1326 p.7

鈴木一政 2017c「金次郎像をたずねて (102):昭和2年建立「負薪読書」の石像 豊川市立牛久保小学校」『報徳』 116-1327 p.6

鈴木一政 2017d「金次郎像をたずねて (103):佐久間町立浦川小学校の二宮小学校像」『報徳』 116-1328 pp.8-9

鈴木一政 2017e「金次郎像をたずねて (104):今も残る陸軍大将乃木希典像と二宮金次郎像 愛知県東栄町立旧中設楽小学校」『報徳』 116-1329 p.6

鈴木一政 2017f「金次郎像をたずねて (105):横須賀愛宕山麓の金次郎像」『報徳』 116-1330 p.10

鈴木一政 2017g「金次郎像をたずねて (106):親子2代に渡っての寄贈 掛川市立曾我小学校の銅像」『報徳』 116-1331 pp.9-10

鈴木一政 2017h「金次郎像をたずねて (107):森町三倉 旧大久保小学校跡地(海拔390<sub>メートル</sub>)に建つ金次郎像」『報徳』 116-1332 p.6

鈴木一政 2017i「金次郎像をたずねて (108):愛知県知多半島沖合に浮かぶ日間賀島佐久島にもある金次郎像」『報徳』 116-1333 p.7

鈴木一政 2017j「金次郎像をたずねて (109):20人以上の名字の違う寄贈者名 廃校佐久間町立香小学校の金次郎像」『報徳』 116-1334 p.8

鈴木一政 2017k「金次郎像をたずねて (110):北海道 豊頃町立豊頃小学校の

金次郎像と子ども報恩訓」『報徳』 116-1335 p.6

鈴木一政 2017l「金次郎像をたずねて (111)：北海道帯広市帯広小学校の金次郎の像 シンガー・ソングライター中島みゆきさんの祖父寄贈の像」『報徳』 116-1336 p.7

鈴木一政 2018a「金次郎像をたずねて (112)：石組みの台座にある二宮金次郎像」『報徳』 117-1337 p.8

鈴木一政 2018b「金次郎像をたずねて (113)：銘板に「報徳」とある小山町立明倫小学校の二宮金次郎像」『報徳』 117-1338 pp.6-7

鈴木一政 2018c「金次郎像をたずねて (114)：世界に一つしかない金次郎像 掛川市立城東中学校の二宮尊徳像」『報徳』 117-1339 p.7

鈴木一政 2018d「金次郎像をたずねて (115)：「青春キップ18」をつかって 京都 東寺の骨董市で買った二宮金次郎像」『報徳』 117-1340 p.11

鈴木一政 2018e「金次郎像をたずねて (116)：「青春キップ18」をつかって 甲府への二宮金次郎像を訪ねる旅」『報徳』 117-1341 pp.6-7

鈴木一政 2018f「金次郎像をたずねて (117)：高山市立犬山北小学校の二宮金次郎像」『報徳』 117-1342 pp.17-18

鈴木一政 2018g「金次郎像をたずねて (118)：JR東海道線愛野駅前広場に建つ二宮尊徳翁廻村像」『報徳』 117-1343 pp.16-17

鈴木一政 2018h「金次郎像をたずねて (119)：二宮金次郎は21世紀を歩いている 三重県津市立一身田小学校の像」『報徳』 117-1345 pp.18-19

鈴木一政 2018i「金次郎像をたずねて (120)：島根県出雲市立(旧斐川町立) 莊原小学校 三代目 ぞうり推譲像(初代像の再建)」『報徳』 117-1346 pp.20-21

鈴木一政 2018j「金次郎像をたずねて (121)：島根県出雲市立(旧斐川町立) 莊原小学校 二代目 二宮尊徳座像」『報徳』 117-1347 pp.20-21

鈴木一政 2018k「金次郎像をたずねて (122)：静岡市立井川小・中学校にもある金次郎像」『報徳』 117-1338 pp.18-19

鈴木一政 2019a「金次郎像をたずねて (123)：山口県防府市 防府天満宮境内の二宮金次郎像」『報徳』 118-1349 pp.20-21

鈴木一政 2019b「金次郎像をたずねて (124)：花巻東高等学校の二宮金次郎

銅像」『報徳』 118-1350 pp.22-23

鈴木一政 2019c「金次郎像をたずねて (125)：長野県千曲市立東小学校校庭に3体ある宮金次郎像」『報徳』 118-1349 pp.20-21

鈴木一政 2019d「金次郎像をたずねて (126)：一九三三年十二月二十三日 昭和天皇の長男として皇太子明仁殿下誕生 誕生記念として二宮金次郎像建立」『報徳』 118-1352 pp.20-21

鈴木一政 2019e「金次郎像をたずねて (127)：京都の街中の小学校にある金次郎像」『報徳』 118-1353 pp.22-23

鈴木一政 2019f「金次郎像をたずねて (128)：香川県（ママ）今治市鈍川温泉 廃校鈍川小学校のグランド隅にある二宮金次郎像」『報徳』 118-1354 pp.20-21

鈴木一政 2019g「金次郎像をたずねて (129)：琵琶湖一周 二宮金次郎像を訪ねる旅 (1)」『報徳』 118-1355 pp.20-21

鈴木一政 2019h「金次郎像をたずねて (130)：南相馬市立石神第一小学校イナゴ捕獲作業記念像」『報徳』 118-1356 pp.20-21

鈴木一政 2019i「金次郎像をたずねて (131)：岡崎の石工 長坂順治 彫刻家 多和田泰山のもとにできた二宮金次郎像」『報徳』 118-1357 pp.20-21

鈴木一政 2019j「金次郎像をたずねて (132)：銘板に「カタカナ文字」の金次郎像」『報徳』 118-1358 pp.22-23

鈴木一政 2019k「金次郎像をたずねて (133)：愛知県豊田市内小学校」『報徳』 118-1359 pp.22-23

鈴木一政 2019l「金次郎像をたずねて (134)：美濃赤坂駅から中山道を歩き垂井駅へ」『報徳』 118-1360 pp.20-21

鈴木一政 2020a「金次郎像をたずねて (135)：北海道の離島利尻・礼文島にある二宮金次郎像」『報徳』 119-1361 pp.24-25

鈴木一政 2020b「金次郎像をたずねて (136)：北海道旅行 ウトロから知床横断道路で知床峠へ 知床峠から羅臼町へ」『報徳』 119-1362 pp.26-27

鈴木一政 2020c「金次郎像をたずねて (137) 東日本大震災にあった二宮金次郎像」『報徳』 119-1363 pp.16-17

鈴木一政 2020d「金次郎像をたずねて (138)：わらじ推譲の像」『報徳』 119-

1364 pp.16-17

鈴木一政 2020e「金次郎像をたずねて (139):愛知県岡崎市内の金次郎像」『報徳』 119-1365 pp.20-21

鈴木一政 2020f「金次郎像をたずねて (140):琵琶湖一周 二宮金次郎像を訪ねる旅 (2)」『報徳』 119-1366 pp.20-21

鈴木一政 2020g「金次郎像をたずねて (141):琵琶湖一周 金次郎像を訪ねて (3)」『報徳』 119-1367 pp.22-23

鈴木一政 2020h「金次郎像をたずねて (142):琵琶湖一周 二宮金次郎像を訪ねる旅 (4)」『報徳』 119-1368 pp.20-21

鈴木一政 2020i「金次郎像をたずねて (143):琵琶湖一周 二宮金次郎像を訪ねる旅 (5)」『報徳』 119-1369 pp.20-21

鈴木一政 2020j「金次郎像をたずねて (144):「千字文」を読む二宮金次郎像」『報徳』 119-1370 pp.22-23

鈴木一政 2020k「金次郎像をたずねて (145):珍しい姿の二宮金次郎少年像」『報徳』 119-1371 pp.20-21

鈴木一政 2020l「金次郎像をたずねて (146):大相撲 大関昇進伝達で口上 正代「至誠一貫」」『報徳』 119-1372 pp.16-17

鈴木一政 2021a「金次郎像をたずねて (147):琵琶湖一周 二宮金次郎像を訪ねる旅 (6)」『報徳』 120-1373 pp.22-23

鈴木一政 2021b「金次郎像をたずねて (148):神奈川県平塚市井筒屋で開かれた二宮金次郎まつり」『報徳』 120-1374 pp.22-23

鈴木一政 2021c「金次郎像をたずねて (149):新城市立新城中学校の金次郎像」『報徳』 120-1375 pp.18-19

鈴木一政 2021d「金次郎像をたずねて (150):JR小田原駅東口 ミナカ小田原タワー 3階 二宮金次郎広場」『報徳』 120-1376 pp.24-25

鈴木一政 2021e「金次郎像をたずねて (151):掛川商工会議所玄関前に立つ 二宮尊徳翁銅像」『報徳』 120-1377 pp.20-21

鈴木一政 2021f「金次郎像をたずねて (152):学校に校歌は必要だ」『報徳』 120-1378 pp.22-23

鈴木一政 2021g「金次郎像をたずねて (153):金次郎像の読んでいる本は「大

- 学」ばかりではない』『報徳』120-1379 pp.24-25
- 鈴木一政 2021h「金次郎像をたずねて (154)：琵琶湖一周 二宮金次郎像を訪ねる旅 (7)』『報徳』120-1380 pp.24-25
- 鈴木一政 2021i「金次郎像をたずねて (155)：高原の理想郷 清里 ポール・ラッシュ記念館近くにある青い目をした二宮金次郎像』『報徳』120-1381 pp.22-23
- 鈴木一政 2021j「金次郎像をたずねて (156)：駅前広場に建つ二宮金次郎（尊徳翁）像』『報徳』120-1382 pp.22-23
- 鈴木一政 2021k「金次郎像をたずねて (157)：厄年（四十二歳）＝役年に二宮金次郎像を寄付する』『報徳』120-1383 pp.16-17
- 鈴木一政 2021l「金次郎像をたずねて (158)：愛知県常滑市にある二宮金次郎像 焼き物の里ならではの金次郎像』『報徳』120-1384 pp.18-19
- 鈴木一政 2022a「金次郎像をたずねて (159)：「負薪読書像」以外の金次郎（尊徳）像』『報徳』121-1385 pp.26-27
- 鈴木一政 2022b「金次郎像をたずねて (160)：戦前岡崎市内にもあった金次郎銅像』『報徳』121-1386 pp.22-23
- 鈴木一政 2022c「金次郎像をたずねて (161)：「負薪読書像」以外の像 尊徳翁座像』『報徳』121-1387 pp.24-25
- 鈴木一政 2022d「金次郎像をたずねて (162)：【二】尊徳翁 正座像』『報徳』121-1388 pp.26-27
- 鈴木一政 2022e「金次郎像をたずねて (163)：琵琶湖一周 二宮金次郎像を訪ねる旅 (8)』『報徳』121-1389 pp.24-25
- 鈴木一政 2022f「金次郎像をたずねて (164)：高等学校にも二宮金次郎像はある』『報徳』121-1390 pp.30-31
- 鈴木一政 2022g「金次郎像をたずねて (165)：二宮尊徳（金次郎）の長女文子の書が刻まれる碑』『報徳』121-1391 pp.28-29
- 鈴木一政 2022h「金次郎像をたずねて (166)：令和三年に建った二宮金次郎像』『報徳』121-1392 pp.24-25
- 鈴木一政 2022i「金次郎像をたずねて (167)：二宮尊徳翁の立像（一）』『報徳』121-1393 pp.28-29

- 鈴木一政 2022j「金次郎像をたずねて (168):二宮尊徳翁の立像 (二)」『報徳』  
121-1394 pp.24-25
- 鈴木一政 2022k「金次郎像をたずねて (169):二宮尊徳翁立像 (三)」『報徳』  
121-1395 pp.24-25
- 鈴木一政 2022l「金次郎像をたずねて (170):天竜浜名湖線原谷駅前に建つ金次郎像」『報徳』 121-1396 pp.20-21
- 鈴木一政 2023a「金次郎像をたずねて (171):群馬県中之条町ビエンナーレ」『報徳』 122-1397 pp.28-29
- 鈴木一政 2023b「金次郎像をたずねて (172):近江八幡市の二宮金次郎像」『報徳』 122-1398 pp.22-23
- 鈴木一政 2023c「金次郎像をたずねて (173):コスプレで有名な「小便小僧」」『報徳』 122-1399 pp.28-29
- 鈴木一政 2023d「金次郎像をたずねて (174):神奈川県小田原市内の小学校にある金次郎像 (一)」『報徳』 122-1401 pp.22-23
- 鈴木一政 2023e「金次郎像をたずねて (175):神奈川県小田原市内の小学校にある金次郎像 (二)」『報徳』 122-1402 pp.26-27
- 鈴木一政 2023f「金次郎像をたずねて (176):小田原市内学校外にある二宮金次郎像 (一)」『報徳』 122-1403 pp.28-29
- 鈴木一政 2023g「金次郎像をたずねて (177):小田原市内の学校外にある金次郎像 (二)」『報徳』 122-1404 pp.36-38
- 鈴木一政 2023h「金次郎像をたずねて (178):小田原市内の学校外にある金次郎像 (三)」『報徳』 122-1405 pp.30-31
- 鈴木一政 2023i「金次郎像をたずねて (179):小田原市内学校外の金次郎像 (四)」『報徳』 122-1406 pp.30-31
- 鈴木一政 2023j「金次郎像をたずねて (180):福井県坂井市春江町 福井県教育費烏合研究所・博物館玄関前に建つ金次郎像」『報徳』 122-1407 pp.32-33
- 鈴木一政 2023k「金次郎像をたずねて (181):神社にある二宮金次郎像」『報徳』 122-1408 pp.30-31
- 鈴木一政 2024a「金次郎像をたずねて (182):小田原市内学校外の二宮金次郎像 (4)」『報徳』 123-1409 pp.32-33

鈴木一政 2024b「金次郎像をたずねて (183):松本市なわて通り商店街」『報徳』  
123-1410 pp.32-33

鈴木一政 2024c「金次郎像をたずねて (184):京都市内廃校跡めぐり」『報徳』  
123-1411 pp.24-25

鈴木一政 2024d「金次郎像をたずねて (185):飯田市内にある二宮金次郎像  
を訪ねる旅」『報徳』 123-1412 pp.24-25

鈴木一政 2024e「金次郎像をたずねて (186):琵琶湖一周 二宮金次郎像を訪  
ねる旅」『報徳』 123-1413 pp.32-33

鈴木一政 2024f「金次郎像をたずねて (187):岐阜県本巣市立土貫小学校の金  
次郎像」『報徳』 123-1414 pp.28-29

鈴木一政 2024g「金次郎像をたずねて (188):負薪読書像」『報徳』 123-1415  
pp.30-31

鈴木一政 2024h「金次郎像をたずねて (189):金次郎の背負う柴・薪は入会  
地でとった」『報徳』 123-1416 pp.30-31

鈴木一政 2024i「金次郎像をたずねて (190):二宮金次郎像と黒猫、金ちゃん  
のしあわせ生活」『報徳』 123-1417 pp.24-25

鈴木一政 2024j「金次郎像をたずねて (191):奄美大島にも二宮金次郎像はあ  
る」『報徳』 123-1418 pp.32-33

鈴木一政 2024k「金次郎像をたずねて (192):戦前に作られた備前焼金次郎像」  
『報徳』 123-1419 pp.22-23

鈴木一政 2024l「金次郎像をたずねて (193):戦前に作られた備前焼金次郎像  
(二)」『報徳』 123-1420 pp.26-27

鈴木直之 1998「二宮尊徳翁の虚像と実像小学校に多い少年像」『磐南文化』  
24 pp.17-26

鈴木博 2008「笠原小学校の少年二宮金次郎像」『新ふるさと袋井』 23 p.1

【せ】

生産と配給社編 1942『特別回収用代用品選集』生産と配給社

【そ】

造事務所編 2021『絶滅事典—20世紀末モノ&コトカタログ—』カンゼン

## 【た】

田崎公司 2001「二宮金次郎像に関する一考察」『大阪商業大学商業史博物館紀要』1 pp.49-60

高橋一司 1968『二宮像をさぐる』高橋一司

高橋一司・中西光夫 1971a「愛知県教育100年史：第37回 第五章 戦争と愛知教育 2 報徳精神と二宮尊徳像の建立」『教育愛知』18-10 pp.62-65

高橋一司・中西光夫 1971b「愛知県教育100年史：第38回 第五章 戦争と愛知教育 2 報徳精神と二宮尊徳像の建立」『教育愛知』18-11 pp.62-65

谷口總一郎 1995『青空写真館6二宮尊徳・再発見：銅像とその改革精神』（月刊あおぞら特別号）青空編集室

## 【ち】

千歳文化財保護協会 2011『協働事業「市内石碑・石像などの調査事業」報告書 石に刻まれた千歳の歴史』千歳市・千歳文化財保護協会

## 【と】

豊泉喜一 2021「新・砂川深層8本を持たない二宮金次郎像」『月刊えくてびあん』37-434 p.1

豊頃町教育研究所生涯学習部編 2012『十勝管内における二宮金次郎像の調査・研究（改訂版）』豊頃町教育委員会・豊頃町教育研究所

## 【な】

中山之隆 2003「加茂の金次郎像」『かも市史だより』7 p.2

## 【は】

萩原佳保里ほか 1989a『志太・榛原・小笠郡下の報徳運動 第一章二宮金次郎について 第四節志太・榛原・小笠地区の金次郎像分布』『金谷高等学校郷土史研究部部誌 産土』15 pp.34-46

萩原佳保里ほか 1989b『志太・榛原・小笠郡下の報徳運動 第三章その他 第二節小中学校の金次郎像を調べて』『金谷高等学校郷土史研究部部誌 産土』15 pp.120-127

早田旅人 2013『近代西相模の報徳運動：報徳運動の源流と特質』夢工房

## 【ひ】

平井悦夫 2015「二宮金次郎像：調査リポート」『郷土文化研究ぬまくま』1

pp.23-33

【ふ】

福田純一 2003「鹿沼の二宮金次郎像」『鹿沼史林』 43 pp.81-98

福田純一 2003「今市の二宮金次郎像」『鹿沼史林』 44 pp.69-78

福田純一 2005「栗野・西方の二宮金次郎像」『鹿沼史林』 45 pp.61-68

藤川祐作 2013「本庄小学校の二宮金次郎像」『生活文化史 史料館だより』 41  
pp.8-9

藤倉徹夫 2016『金次郎はどこへいった：道内の像と昭和をめぐる旅』 ユベオ  
ツ書房

武士田忠 1996「二宮金次郎像」『学校の怪談大事典』 ポプラ社 pp.123-126

藤森照信 1987「二宮金次郎像の生涯」『東京路上博物誌』 鹿島出版会 pp.117-  
130

【ま】

松尾公就 2006「二宮金次郎像の変遷と「応召（徴）」『昭和のくらし研究』 4  
pp.37-52

【み】

三浦茂 2011『わが町の二宮金次郎：豊川・蒲郡・幸田・岡崎』 三浦茂

三浦茂 2014『続わが町の二宮金次郎：豊橋・田原・新城・北設楽』 三浦茂

三浦茂 2022『三河の金次郎像全調査』 春夏秋冬叢書

【む】

無記名 1942「セメント美術工作研究會と今學期の事業」『セメント工芸』 31  
pp.14-16

無記名 2022「金次郎異聞」『COCONUTS CULB』 2022-8月号 pp.3-8

村本外志雄 2012「金沢の二宮金次郎像と昭和：その記録で考察」『石川郷土  
史学会々誌』 45 pp.81-86

【も】

森元辰昭 2009「二宮金次郎像の再考」『教育研究叢書 第22集（平成20年度）』  
福武教育文化振興財団 pp.76-77

森元辰昭 2011「岡山県における二宮金次郎像の実態調査」『岡山県立記録資  
料館紀要』 6 pp.69-93

森元辰昭 2015「津山地域の金次郎像・報徳運動の研究（その1）」『津山市史研究』1 pp.21-38

森元辰昭 2016「津山地域の金次郎像・報徳運動の研究（その2）」『津山市史研究』2 pp.31-60

森山貴之 2002「公園とセメント彫刻：初期野外彫刻の経緯と背景」『デザイン理論』41 pp.61-75

#### 【な】

中西雅明 2017「報徳思想を踏まえた独自の取組みと二宮金次郎像の全国への普及：さがみ信用金庫と愛知県岡崎地区の石工業」『信金中金月報』16-3 pp.98-108

中西光夫 1972「愛知県教育百年の歩み」『教育愛知』20-6 pp.18-66

#### 【に】

西尾肇 1988「とっとり路上博物誌（3）ウォッチング・ザ・金次郎」『とっとり市報』503 p.7

二宮茂徳編 1999『山梨の二宮金次郎像写真集』二宮茂徳

#### 【の】

能登健・桑原弘美 2006「群馬県下公立学校における二宮金次郎像の調査」『群馬県立歴史博物館紀要』27 pp.49-72

#### 【や】

八木繁樹 1980『報徳運動100年のあゆみ』龍溪書舎

#### 【参考文献】

赤瀬川原平・藤森照信・南伸坊編 1986『路上観察学入門』筑摩書房

我妻考一 1997「マイコレクション（23）缶ビールが米国園児のランチボックスに」『エルダー：高齢者雇用の総合誌』19-11 p.64

飯島しんごう 2014『怪談イズデッド』1 講談社

一柳廣孝 2014「「学校の怪談」の近代と現代」『文藝論叢』82 pp.39-56

かんざきたかし 2002『走る二宮金次郎のなぞ』学研

菊地浩平 2024『人形は人間のなんなんだ？』NHK出版

- 木村博一 2009「地域教育実践の構築に果たした社会科教師の役割：愛知県三河地域における中西光夫と渥美利夫の場合」『社会科研究』70 pp.21-30
- 高橋一司 1979『虚像にしたのは誰か』愛知報徳会
- 田中純 1996「非都市の存在論3 <路上>の系譜：バラックあるいは都市の<忘我状態>」『10+1』7 pp.16-27
- 谷田博幸 2019『国家はいかに「楠木正成」を作ったのか：非常時日本の楠公崇拜』河出書房新社
- 塚崎昌之 2020「明治期以降、河内・摂津における「楠公遺蹟」の「発見」と「創造」：「臣民」教育・地域振興・観光」『教育研究』46 pp.1-26
- 藤栄道彦 2022『妖怪の飼育員さん』11 新潮社
- 仲原生 1998「アート空間とヨコハマ」『国づくりと研修』80 pp.8-9
- 真倉翔・岡野剛 1995『地獄先生ぬ〜べ〜』6 集英社
- 森直由 2024「二宮金次郎像入札、問い合わせ数十件 三木市、売却へ 〓兵庫県」『朝日新聞』2024年5月15日付朝刊淡路版
- 森正人 2017『展示される大和魂：「国民精神」の系譜』新曜社

## 【図版典拠】

表1 【註】3) のWebページより、サイト運営者の許諾を得て転載。

2021年1月現在 私の調査結果と各地で調査され公表されているデータを集計したもの										
	県別総数	石像	陶像	コンクリート像	ブロンズ像	木像	その他	撤去跡等	未取材	合計
北海道	200	32	19	34	101	0	4	9	1	200
神奈川	167	88	0	13	64	1	1	0	0	167
静岡	84	40	7	22	15	0	0	0	0	84
長野	6	5	0	1	0	0	0	0	0	6
岐阜	194	137	11	31	10	1	0	4	0	194
愛知（尾張）	225	168	11	31	9	0		5	1	225
愛知（三河）	345	303	2	20	14	3	1	2	0	345
三重	119	79	7	14	15	0	0	4	0	119
滋賀	95	76	7	1	6	0	3	2	0	95
京都	3	3	0	0	0	0	0	0	0	3
奈良	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
千葉	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
岡山	57	2	50	3	1	1	0	0	0	57
広島	45	4	17	20	3	0	0	0	1	45
鳥取	32	11	6	7	8	0	0	0	0	32
香川	6	0	5	1	0	0	0	0	0	6
福岡	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
鹿児島	164	69	14	41	39	1	0	0	0	164
合 計	1746	1021	156	239	285	7	9	26	3	1746
	県別総数	石像	陶像	コンクリート像	ブロンズ像	木像	その他	撤去跡等	未取材	
素材別割合	%	58.5	8.9	13.7	16.3	0.4	0.5	1.5	0.2	100

表 1 二宮金次郎像集計表